

6.5 教育の質の向上

進捗状況報告

・2008年1月23日に「大学院学生をどう学会活動に関わらせるか」というテーマでFDワークショップを実施した。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

・本研究科は2001年度に設置された当初から目標に掲げている4項目を実施してきたし、よりよい授業を追い求めている。授業評価に基づいて時には担当者の変更もなされてきた。FDワークショップについては2004年度から実施されており、英語コーパスの講習会、E-learningの講習会、上記のワークショップを実施してきた。今回の実施では3分の2の教員が参加し、大学院学生を学会活動に積極的に誘導している領域の教員とも意見交換を行い、もっと学生に学会活動をはじめ研究発表の場を持たせるように指導することの重要性について共通認識を得ることができ、有意義であったと判断している。

学内第三者評価

大学院における授業評価アンケートは対象者が少数であり困難を生じやすく、設問や回収に工夫が必要である。こういった条件のもと授業評価の活用については、限定されているとはいえ一定の活用ははかられている。今後は授業担当者へのフィードバックが研究科の中に共有財産として蓄積される方策の工夫が求められる。また、2007年度の進捗状況報告に授業評価について「学生への公表について検討中」とあり、全学的な動向との関係もあるが、授業評価の結果をHPなどで公表する大学院も出てきており、その進展に期待する。
FDワークショップでの議論によってどのような共通理解・経験・認識等が生まれたのか検証が必要であろう。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
新設置基準は、シラバスの作成、それに即した授業及び研究指導、授業評価とその結果のフィードバックならびに学生への公表、改善のためのFD研修などを事実上求めているが、こうした活動が実施されて有機的に機能し、教育改善に役立っているという状況が記述からは見えにくい。本報告に見る限り、個々の活動が個別に行われていて、FDとしての総合性が意識されていないように見える。教育改善への姿勢について、研究科でつっこんだ議論が必要であろう。